

AMEE（欧州医学教育学会）@ヘルシンキ参加記

国際交流委員会

孫大輔（東京大学大学院医学系研究科医学教育国際研究センター）

今年の AMEE は北欧フィンランドの首都ヘルシンキで開催された。年々、参加者は増加傾向となっており、今年は 90 カ国以上から、約 3700 人が参加し、1900 以上のプレゼンテーションが発表された。初日の Plenary では、フィンランドの教育専門家である Dr. Pasi Sahlberg による講演が印象的であった。フィンランド型教育の特徴として、テストや選択といった競争主義ではなく、信頼・協調・社会的公正性などが挙げられ、特に公平性（equity）が教育の質を高める鍵であると。公平性の高い社会の代表である、フィンランド、カナダ、日本などで PISA スコアが高いというデータも示されていた。

筆者は今年、ePoster 発表を行なったが、ePoster では今年から新しいシステムが導入されていた。“Learning Toolbox”というもので、これを利用してプレゼンの制作や当日の発表を行うのであるが、基本的にタブレットやスマートフォンを前提とした仕様となっており、このアプリ上で、他の ePoster を検索、閲覧できる。また SNS のように、リンクに飛んだり、発表者とコミュニケーションがとれる仕組みとなっており、学会におけるプレゼンテーションの新しい時代を感じさせるものであった。

個人的には行動科学教育、特にヒューマニティ教育に関心があり、関連のセッションに多く出席した。ヒューマニティ教育では、「共感」（empathy）に関する発表が多く行われており、現在では欧米のみならず、アジアや中東圏からも多くの発表があった。心理的尺度を用いた量的研究のみならず、芸術的手法（映画、詩、患者への手紙など）を利用したヒューマニティ教育の効果、人類学者や社会学者との協働による学際的アプローチ、などの発表が行われており、こうした行動科学分野の教育が、世界的に大きく関心を持たれていることを実感した。

AMEE への日本からの参加も年々増えており、日本人会（Japan Night）は今年、45 名の参加であった。来年は、スイスのバーゼルで 8 月 25 日～29 日に開催予定である。